「ガリバー」と「アリス」にみる大きさの表現をめぐって

笠井勝子

§0. ここに、一見伽話風の作品が二つある。イギリスの諷刺文学の代表とも見做されているスイフトの「ガリバー旅行記」と、新造語を出したことでも有名なルイス・キャロルの「不思議の国のアリス」である。

伽話風といったのは、この世に存在しない国々の話であり、子供が読んでも、それなりの面白さが十分あるし、また、不思議の国の風変りな出来事は、子供達の夢を存分に満足させてくれるものだからである。

一見、と言ったのは、伽話風の構成でありながら、作者の意図は遥かに深い所にあったということである。「ガリバー旅行記」について、漱石は、"「ガリヴァ旅行記」に在っては抽象的真理を述べんとして居る。普遍的命題を述べんとして居る"（「文学評論」P. 455～6）と書いている。「不思議の国のアリス」の方は"…books for children that had the advantage of appealing by their humour, logic, and inventive absurdity to grown-up people also."（*The Oxford Companion to English Literature*）で、単なる児童文学の域に収まり切れない用語の面白さを具えている。

この二つの作品は、中に出てくる人間の大きさが普通でない。以下は、この点について考えたものである。

§1. 「ガリバー旅行記」の語り口は、真しやかで、現実に起った航海記という虚構の上に立っている。巻頭に出てくる *The Publisher to the Reader* の中の次のような1節からも、その一端がうかがえる。

There is an air of truth apparent through the whole; and in-

deed the author was so distinguished for his veracity, that it became a sort of proverb among his neighbours at Redriff, when any one affirmed a thing, to say, it was as true as if Mr. Gulliver had spoke it. (*Everyman's Library edition* p. 8)

これに対して、「不思議の国のアリス」の方は、子供が昼寝の間に夢で見た不思議の国の物語として、作り話、嘘ということが大っぴらになっている。その終り近くに次のような一節がある。

'Oh, I've had such a curious dream' said Alice, and she told her sister, as well as she could remember them, all these strange Adventures of hers that you have just been reading about;
(*Puffin Book* p. 159.)

どちらもフィクションであることに変りはないが、その虚構が、「ガリバー」では、現実に生じた出来事として展開していくのに対して、「アリス」の方は、不思議の国（実在しない世界）で生じる出来事として展開してゆく。つまり二つの虚構の成り方は逆の方向を向いているのである。この相異が、大きさの描写の部分にどのようにあらわれるか、以下でみてゆきたい。

§2. *Gulliver's Travells* の中で、初めに出てくる *A Voyage to Lilliput* を例にとってみよう。この国は周知の通り、Gulliver を 'Man Mountain' と描写する小人の国である。この中で小人の国の大きさについて、具体的に明確な数字を挙げることが多い。Lilliput 国の描写にでてくる数値は、概略、'a human creature not six inches high' と 'in the proportion of twelve to one' とに基づいて、明確に規定されている。

これに対して、アリスの方は、例を *Alice's Adventures in Wonderland* にとると、数字も出てはくるけれども、具体的な大きさを問題にするよりも、相対的に大きくなった、或いは小さくなった、という表現、もしくは、その大きくなり様、小さくなり様についての描写が多い。

この相異——明確な数字を一々挙げて大きさを描写する「ガリバー」と、具体的な数字を挙げることが少ない「アリス」の相異——は、先に述べた虚構の成り方の相異を反映したものと思われる。数字を枚挙することは、現実に生じた出来事らしくする一つの要素になると考えられるが、「アリス」には、そのような必要はなかったのである。漱石は、先に引用したことばを続けて、次のように書いている。“抽象的真理を述べるのであるからして、之を文学的にするには単に具体的に表はせば可いのである”(p.456)，また“スキフトが写実的の想像をする時には屹度数字を擔ぎ出す”(p.520)，“スキフトの想像は詩的と云ふよりも寧ろ散文的だと云へる，散文的と云うよりも寧ろ事実的だと云へる”(p.523)。

数字は、彼の想像（虚構）を真しやかに、事実として、写実的に描き出す為に使われている，と言ってよいだろう。

「ガリバー」の著者 Jonathan Swift (1667—1745) は1713年にダブリンのSt. Patrick Church の deanになった。*Gulliver's Travells* は1726年に出版されている。「アリス」の著者Charles Lutwidge Dodgson (1832—98) は Oxford 大学のmathematical lecturer であった (1855—1881)。*Alice's Adventures in Wondesland* は1865年に世に出ている。彼には数学の論文もいくつかあり、その中で *Euclid and his Modern Rivals* (1879) は好著とされている。

§3. ここでは、*A Voyage to Lilliput* (Everyman's Library の版) から、大きさを描写した部分を引用して、いくつか気の付いた点について述べることとする。

1. a human creature not six inches high (p.16)
   身の丈 6 インチ足らずの人間

記録の百科事典を開くと、世界で一番小さい小人で58センチという記録がある。

2. a stage erected about a foot and a half from the ground (p.17)

地面から高さ1フィート半ほどの舞台

この舞台は、発見された当初のガリバーを地面にがんじがらめに縛りつけておいて、彼に向って皇帝の使者が演説をする、そのための舞台である。

3. the emperor's largest horses, each about four inches and a half high (p.22)

皇帝所有の大きい馬でどれも背丈4インチ半はあった。

4. The great gate fronting to the north was about four feet high, and almost two feet wide, (p. 23)

北向きの大きな門は、高さが約4フィート、巾は2フィートに近い。

Lilliput で一番大きい寺院の門のことで、ここにガリバーが繋がれる。

5. the tallest trees, as I could judge, appeared to be seven feet high (p. 24)

一番高い樹木は、見たところ7フィートはあった。

この樹木の高さは、この国の住人の背丈を考え合わせると、巨木の感がある。これは隣国Blefuscu でも同じ事情であったと思われるが、最後にBlefuscu の海岸に漂っているボートを修復して、英国へ出立する件で、木材を削って櫂を作る、I was at incredible pains in cutting down some of the largest timber trees for oars and masts (p. 77) その材料となるのである。

6. He held his sword drawn in his hand ……; it was almost three inches long, (p. 26)

手には護身用の剣を抜いて持っていた。長さは3インチほどであった。

皇帝の剣の長さ。6インチの身長を考え合わせればよい。

7. Six hundred beds of the common measure were brought in carriages, ……; an hundred and fifty of their beds sown together made up the breadth and length, and these were four double (p.27)

普通の大きさのベットが600人分、車で運び込まれた… 150人分を縫い合わせて（私に合う）巾と丈のものが出来る、それを四枚重ねる。

ガリバーとLilliput 人との身長の比が12対1（引用文12）というところとほぼ一致する（縦に12枚、横に12枚を敷きつめると144枚になる）。

8. from which, on the left side, hung a sword of the length of five men; (p.32)

皮の腰帯の左側には5人の身の丈を合わせた長さの剣を一本下げている。

ガリバーの剣を小人が描写しているところ。

9. the rope-dancers, performed upon a slender white thread, extended about two foot, and twelve inches from the ground. (p.35)

綱渡りは2フィート程の長さの細いヒモを地面から12インチのところに張ってその上でやった。

渡した綱の高さが地上2フィート12インチである、と訳した本もあるそうだが、two foot の次にcomma があるから、綱の長さの方が2フィート

であろう。Lilliput 人には近くのものしか見えない（引用文22）こと、また6インチ足らずの背丈であることを考え合わせれば、地上12インチのところで曲芸をしたと考えてよい。

10. The emperor lays on a table three fine silken threads, of six inches long. (中略), which they all wear girt twice round about the middle; (p.36)

    6インチの長さの三本の見事な絹紐を机の上におく。それを戴いた廷臣たちはみな腰のまわりに二重に巻いてつける。

11. the said Man Mountain shall have a daily allowance of meat and drink, sufficient for the support of 1724 of our sudjects; (p.41)
    我が臣民1724人扶持の食料と飲料を与える。

12. having taken the height of my body by the help of a quadrant, and finding it to exceed theirs in the proportion of twelve to one, they concluded from the similarity of their bodies, that mine must contain at least 1724 of theirs, (p.42)
    四分儀で私の背丈を測ってみたところ、彼らの背丈との比は12対1にもなった。双方の身体の相似から、私の身体は少くとも1724人分の体積があると推定した。

この1724という数字は、身体の体積を出すために身長の比率12を、縦、横、高さに当てて出したもので、この十二分の一という比率は、他の事物についても当てはまると考えてよい。先に出た樹木の高さは、、この点か

らみるとどうであるか。7フィートを12倍にして、メートルに直すと25.6メートルの高さになる。新宿御苑の中で一番高い木は34m（百合の木）あるということであるから、市中の御苑の木の高さとして7フィートというのは不自然な高さではない。

13. The wall which encompassed it, is two feet and an half high, and at least eleven inches broad, (43)
町を囲む城壁は、高さが2フィート半、巾は11インチはあった。

14. each side of the wall being hundred foot long. (p.43)
（正方形をしている町の）城壁の一辺は 500フィートある。

15. The two great streets……are five foot wide (p.43)
二つの大通りの巾は5フィート。

16. The lanes and alleys……are from twelve to eighteen inches (p.43)
小路や横丁の巾は12インチから18インチ。

17. It is inclosed by a wall of two foot high, and twenty foot distant from the buildings. (p.43)
皇帝の宮殿は高さ2フィートの壁に囲まれていて建物は20フィートほど奥に立っていた。

18. the great gates, from one square into another, were but eighteen inches high, and seven inches wide. (p.43)
宮殿の広場から広場へ通じる大門は高さ18インチ、巾7インチしか

なかった。

19. the buildings of the outer court were at least five foot high (pp.43—44)
外苑にある建物の高さは、少くとも5フィートはあった。

20. cutting down with my knife some of the largest trees in the royal park, …… Of these trees I made two stools, each about three foot high
御苑の一番高そうな木を数本切って、高さ約3フィートの踏み台を2つ作った。

21. the tallest horses and oxen are between four and five inches in height, the sheep an inch and a half, more or less; their geese about the bigness of a sparrow (p.55)
一番大きい馬や牛で高さが4インチから5インチ、羊は1インチ半内外、鵞鳥は（イギリスの）雀くらいの大きさ。

22. until you come to the smallest, which, to my sight, were almost invisible; but nature hath adapted the eyes of the Lilliputians to all objects proper for their view: they see with great exactness, but at no great distance. And to shew the sharpness of their sight towards objects that are near, I have been much pleased with observing···· a young girl threading an invisible needle with invisible silk. (p.55)
一番小さいものになると、私の視力ではほとんど見えない。しかし

自然はリリパット人の目をそうした物を見るように作っている。彼らは（細かいものは）精確に見るけれども遠くは見えない。近くのものを非常に精確にみることは、例えば、若い娘が（私には）見えない針に見えない糸を通しているのを見て面白く思ったことがある。

23. to take up the coach and two horses‥‥and place them on a table, where I had fixed a moveable rim quite round, of five inches high, to prevent accidents. (p.64)
馬車と馬とをテーブルの上に乗せた。テーブルの縁は事故を防ぐために5インチの高さの取りはずし自在の縁枠を立てた。

この、事故防止につける枠の高さは、次に引用する模擬試合を行うハンカチの舞台の欄干の高さと同じ5インチである。こちらは馬車、次のは騎馬のためにつけたもので、馬の背丈は大きいもので4～5インチ（引用文21）ある。

24. I had the good fortune to divert the emperor one day, after a very extraordinary manner. I desired he would order several sticks of two foot high, and the thickness of an ordinary cane, to be brought me; whereupon his Majesty commanded the master of his woods to give directions accordingly ; and the next morning, six wood-men arrived with as many carriages, drawn by eight horses to each. I took nine of these sticks, and fixing them firmly in the ground in a quadrangular figure, two foot and a half square; I took four other sticks, and tyed them parallel at each corner, about two foot from the ground; then I fastned my handkerchief to the nine sticks that stood

erected; and extended it on all sides, until it was as tight as the top of a drum; and the four parallel sticks rising about five inches higher than the handkerchief, served as ledges on each side. (pp.36～37)

高さ2フィートの棒を取り寄せて、先づ9本を地面に立てて正方形を形どり、その一辺の長さが2フィート半。次に4本の棒を地面から約2フィートの高さの所で水平にして四隅に縛りつける。ハンカチを9本の直立した棒に括りつけて広げるとピンと張った舞台になり、4本の水平な棒が、ハンカチより5インチ程高くなって欄干の役に立つのである。

この舞台に24頭の武装騎馬兵を乗せて東西に分かれて模擬試合をさせる。*Oxford English Dictionary* で *handkerchief* を引いてみると、

A small square of linen, silk, or other fabric (which may be embroidered, fringed, etc.), carried in the hand or pocket (pockt-handkerchief) for wiping the face, eyes, or nose, or used as a kerchief to cover the head, or worn about the neck (neck handkerchief or neckerchief).

と出ていて、その用途は、いわゆるハンカチの役目から、頭を包んだり、首に巻いたりするものまである。一辺が2フィート半の枠の中にピンと張るのであるから、それより一と囲り小さいと考えられるが、それで約75センチ角のハンカチになるから、多分、首に巻いたりする類の大きいものであろう。

スイフトは「ステラへの手紙」の中で、嗅ぎ煙草を止めたので、代りにハンカチを沢山買っている，

I dined to-day at Lord Shelburn's, where Lady Kerry made me a present of four India handkerchiefs, which I have a mind to keep for little M D, only that I had rath-

er, &c. I have been a mighty handkerchief monger, and have bought abundance of snuff ones since I have left off taking snuff. (Chelsea, May 4.)

と書いている。

この中のsnuff ones というのは香水入りのハンカチのようなものであろうか。A mighty handkerchief monger (monger はO.E.D によれば、"monger nearly always implies one who carries on a contemptible or discreditable 'trade' or 'traffic' in what is denoted by the first element of the compound,") は、単にハンカチを買っていることを大仰に言ってみただけであろうが、Lilliput国でハンカチを使っての上記のような場面を思いついたことを考え合わせると面白い。

ところで、このハンカチの舞台について気になる数が二つある。一つは正方形に坑を打つのに棒を9本使ったというところ（普通なら8本で足りるのだが）。もう一つは、棒の長さは2フィートと断わっていながら一辺が2フィート半の正方形を囲むのに4本しか使っていないところ。

§4. *Alice's Adventures in Wonderland* の中でAlice の身長は、幾度か伸びたり縮んだりしている。ここでは、彼女の身長を知る手がかりになる箇所を Puffin Book から引用し、気付いたことをいくつか述べることとする。

25. a little door about fifteen inches high (p.28)

15インチほどの小さな扉

兎の後を追って飛び込んだ穴の先に hall がある。そこから花園へ抜け出る扉で、この時は結局ここを通り抜けることが出来ない。

26. it led into a small passage, not much larger than a rat-hole (p.28)

鼠の穴位の大きさしかない、小さな通路

27. she was now only ten inches high,‥‥she was now the right size for going through the little door (p.30)

背丈はたった10インチ、これで小さい扉を潜るのに丁度よい大きさになった。

水薬を飲んで小さくなったところ。

28. she was now more than nine feet high, (p.34)

背が9フィート以上になっていた。

鍵に手が届かないので、ケーキを食べて大きくなる。彼女の居る所は天井が低い、a long, low hall なのだが、それがどれ位の低さなのかは書いてない。John Tenniell の絵に見るように立っては居られなかったのだろう。

29. there was a large pool all round her, about four inches deep and reaching half down the hall. (p.34)

アリスの周囲に涙の水溜りが出来た、深さ4インチ程で、ホールの半分が漬かった。

涙の水溜りが、reaching half down the hall というのは、このhallが兎の穴を通ってやって来た所にある地下の hall であるから、多少傾斜していたということであろう。緩やかに傾斜している hall の向う半分に水溜りが出来たということ。Half down the hall を高さの半分ととると、水溜りの深さが4インチでは無理がある。風変りなことが起る国とは

いえ、このようなところは道理のままに考えて差支えない。

30. she was now about two feet high, and was going on shrinking rapidly:····she dropped it hastily, just in time to avoid shrinking away altogether. (p.38)

アリスは2フィート程になって、しかもまだどんどん縮んでいた、そこで慌てて扇を捨てた。すんでのことで縮んで消え去るところであった。

9フィートの背丈から小さくなってゆくところ。To avoid shrinking away という表現が面白い。

31. her foot slipped, and in another moment, splash! she was up to her chin in salt water. (p.38)

足が滑って次の瞬間、首まで塩水に漬っていた

小さくなったAlice は足を滑べらせて水溜りに落る。床が平坦であれば、足を滑べらせてから落ちるまでもなく、初めから水の中であったことだし、立ち上ればすむだろう。

32. she found her head pressing against the ceiling, and had to stoop to save her neck from being broken.····very soon had to kneel down on the floor,····and she tried the effect of lying down with one elbow against the door, and the other arm curled round her head.····as a last resource, she put one arm out of the window , and one foot up the chimney, (p.54)

頭が天井につかえ始めたので、首の骨が折れないように、かがまなければならなかった。たちまち、床の上に膝をつくことになった。

次には片方の肘を扉に突っ張り片方の腕で頭をおさえて横になった。終いには、片腕を窓の外に出し片足を煙突の中に押し込んだ。

33. she was about a thousand times as large as the Rabbit, (p.56)
兎よりはるかに大きくなっていた。

34. she swallowed one of the cakes, and was delighted to find that she began shrinking directly. As soon as she was small to get through the door, ···· (p.61)
ケーキを一つ飲み込むと、とたんに小さくなりだした。扉が通れる位まで小さくなるのをまってから、

引用文の32、33、34はWhite Rabbit の家での出来事。大きくなってゆく様子を描写するのに数字は出ていない。33のthousand というのは、loosely, exaggerated style (Hornby) であって、文字通りの千という意味ではないだろう。

35. There was a large mushroom growing near her, about the same height as herself; (pp.63—64)
傍らに、自分と同じくらいの高さの茸があった。

36. three inches is such a wretched height to be.' 'It is a very good height indeed!, said the Caterpillar angrily, rearing itself upright as it spoke (it was exactly three inches high) (p.72)
「3インチの背丈なんてほんとにひどいわ」
「実に素適な背丈じゃないか」

扉が通れる位 (34) とか、自分と同じ位の茸 (35) というのは、3インチ (36) のことで、それはまた、毛虫の高さでもある、といった調子で続いている。

37. Her chin was pressed so closely against her foot; that there was hardly room to open her mouth; (p.73)
(背が縮んで) 顎が足元に来ていたものだから口を開ける隙間もない程であった。

38. all she could see, when she looked down, was an immense length of neck, which seemed to rise like a stalk out of a sea of green leaves that lay far below her. (p.73)
下を見ると、見えるのは遠々と伸びた首が、遥か下方のあたり一面の緑の木の葉の中から茎のように1本突き出ていた。

37と38も小さくなったり大きくなったりする部分の描写であるが、縮んでしまって口を開ける隙間がない、とか、首が茎のように伸びて下の森を茎の囲りの葉に見たてる。Carroll のこのような空想は実に楽しい。

39. I've got back to my right size. (p.76)
普段の大きさに戻らなくては、

40. she came suddenly upon an open place, with a little house in it about four feet high. (p.76)
拓けた所に4フィートばかりの小さな家が1軒あった

41. she had brought herself down to nine inches high. (p.77)
背を9インチに縮めて

42. It was so large a house, that she did not like to go nearer till she had nibbled some more of the left-hand bit of mushroom, and raised herself to about two feet high (p.90)
とても大きな家だったので、左手の茸を噛って背を伸ばして2フィートになった。

40〜42は、行き先の家の大きさに合わせて自分の背を高くしたり低くしたりするところ。Cheshire Cat に出合うのは引用文42に先立つ部分であるから、その時 Alice は9インチだったということになる。42の大きな家というのは、Hatter の家で、March Hare とティーパーティーをしている所。

43. Once more she found herself in the long hall, and close to the little glass table.····she set to work nibbling at the mushroom till she was about a foot high: (p.103)
小さくなるために茸をチビチビ噛って、背が1フィートになるようにした。

この中の省略した部分に次の一節がある。····,and began by taking the little golden key, and unlocking the door that led into the garden. それから1フィートになってthen she walked down the little passage と続いていく。扉は15インチ (25) で、その先の通路は鼠の穴くらい (26)。初めに此処に来て通り抜けようと小さくなった時は10インチであった。

44. Alice felt a very curious sensation:····she was beginning to grow larger again, (p.144)
とても変な感じがした。アリスは、また、大きくなり出した。

トランプの国、最後の法廷での出来事。それまでは何かを飲んだり食べ

たりして大きさが変っていた。ここでははじめて、そのような原因なしに大きくなって、元に戻る、

45. she had grown to her full size by this time. (p.157)
　　どんどん大きくなって、すっかり元通りに戻っていた。

つまり、徐々に夢が醒めてゆくのである。

こうしてみてくると、二つの作品の大きさの描写がどのように異っているかがよくわかる。Swift の手法は写実的で、実物大の模型作りにすぐに取りかかれるのではないかと思うくらいにできている。Carroll の方は、大きさ或いは小ささについての空想を自由なことばにのせて楽しんでいるように思われる。

参考文献

J. Swift *Gulliver's Travels* Everyman's Library
Lewis Carroll *Alice's Adventures in Wonderland* Puffin Book
C. V. Doren ed. *The Portable Swift* The Viking Press
夏目漱石 「文学評論」 春陽堂（大正14年）
中野好夫 「スウィフト考」 岩波新書
The Oxford Companion to English Literature 丸善
Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English 開拓社
The Oxford English Dictionary Oxford
「記録の百科事典」 竹内書店